

こもれば学級（情緒学級）の研究

帯広小学校の目指す子ども像

「自分が好き 友達が好き 学校が好き 帯広の街が好きな帯小っ子」

- (1) 対話を通して互いの考えの違いやよさに気づき、自他の思いを大切にできる子ども
- (2) 集団の中で、自分のよさを生かしながら、友達と信頼・協力できる子ども



研究主題

「自己を見つめ、互いを認め合いかわりあう子どもの育成」
～互いのよさや違いを認め合う人間関係づくり～
＜3年次計画の1年目＞



これを受けて、こもれば学級では、以下のような子どもの育成を目指す。

- (1) 自分のことを知り、自分の価値を認め、自分のことを大切にできる子ども
- (2) 他者を認め、相手の気持ちになって感じたり考えたりできる子ども
- (3) 自分の周りの人たちと、誠実にかかわり、お互いに成長し合おうとする子ども

1 こもれば学級の研究について

(1) 本校の研究との関連（道徳的実践力との接点）

現在、発達に障害のある児童生徒の特別支援教育が制度的には完全実施され、今後インクルーシブ教育が浸透し進んでいくと思われる。インクルーシブ教育の中では、障害や社会的不利を有する子どもだけでなく、ともに育つ周囲の子どもたちも影響を受けながら育っていく。自分とは違うどんな人たちとも協力し合って社会を作っていこうとする心を育てていくことが、より一層大切だと思われる。

今年度の本校の研究主題「自己を見つめ、互いを認め合いかわりあう子どもの育成」には障がいをもっているもっていないにかかわらず、「一人一人の違いを受け入れ尊重することの大切さ」を理解しその心を育てていきたいという願いが込められている。特別な支援を要する子どもの中には、みんなと同じようにできない自分を意識しネガティブな思考が積み重なり、自己肯定感をもてない子どもも少なくない。他者とよりよい関係を築いて生活するためには、まず自分に対して肯定的で自分を価値のある存在だと思える健全な自尊感情が必要である。（セルフエスティーム）が必要である。健全なセルフエスティームは、日常直面する問題に対して、前向きに効果的に解決していくためのエネルギーになる。

そのためには、まず、自分の苦手なことや得意なこと、人と違うことなど、自分のことをよく知り認め、支援を受けながら苦手なことにも挑戦し、得意なことを伸ばしていこうとする意欲をもつことが大切である。

【道徳の内容項目A主として自分自身に関すること（個性の伸長）に関連】

自分に対して肯定的で、自分を価値ある存在だと思うことで、人とのかわりや様々な問題に対して前向きになろうとする気持ちを持ち、身近にいる人の気持ちに気づき他人に対して優しい気持ちをもつことができる。

【道徳内容項目B主として人との関わりに関すること（親切・思いやり）に関連】

そして考えや意見を交流し合う場面を設定し、経験を積み重ねることで、自分の思いを伝えるとともに自分と異なる意見や立場を大切するよさを実感し、お互いに「違い」を理解し受け入れることができ、ともに歩み互いに高めあうことができるであろう。

【道徳内容項目B主として人との関わりに関すること（相互理解・寛容）に関連】

こもれび学級での、個別学習や自立活動の時間、さらに交流学級での支援を通して、自分のことをよく知り大切にすることや他者を認め相手の気持ちになって考えることを学び、子どもたちが互いに成長しあえる基盤を作っていきたいと考える。

(2) 本校の特別支援学級（こもれび学級）の児童の実態から

情緒学級は主に情緒面に課題がある児童（自閉スペクトラム症など）が中心となっているが、障害の重複化や多様化により、実態は多岐にわたっている。また、発達検査をまだ受けておらず客観的な情報が不足している児童もいる。

今年度の情緒学級は、1年生4名・2年生2名・4年生5名・5年生5名・6年生2名の18名が在籍しており、「人とのかかわりが苦手」「こだわりが強い」「注意が散漫で集中ができない」「自分の気持ちをうまく表現できない」「学年相応の学力が乏しい」など、実態の異なる様々な児童がいる。個別の指導計画をもとに、児童それぞれの課題に取り組んでいる。

(3) こもれび学級の指導形態

児童の実態やニーズに合わせて「個別学習」「小集団活動」「中集団活動」「学級支援」の学習形態をとっている。

「個別学習」では、教科の補充や実態に合わせて個々の学力を伸ばすこと、感情のコントロール、課題への挑戦、感情の発散などを行っている。

「小集団活動」「中集団活動」では、個別の目標を意識しつつ、4～5人（又は5～10人）の集団の中で、場面設定をしてロールプレイを行ったり、ゲーム・制作などの活動を行ったりして、自己理解や他者理解する力を高めたり、自分を表現したり相手とやりとりをしたりして、コミュニケーション能力を高めたりすることを目標に活動している。

「学級支援」では、学級での学習の支援を基本として、個々の課題に対する配慮や支援を行っている。

2 研究仮説と仮説検証の視点

研究仮説

個別学習や小・中集団活動において、自己肯定感を育み自己認知力・他者理解力を高めることで、自他の思いを大切にし、信頼・協力し合える子どもが育つであろう。

仮説検証の視点

視点1

児童一人一人の的確な実態把握に基づいた個別指導計画を作成し、個別の目標は自立活動の区分・項目との関連を明確にしているか。

視点2

題材は、「自分をみつめ、互いを認め合う」方法として適切だったか。また、児童の発達段階に応じた、指導法の工夫や適切な支援がなされているか。

視点3

特別支援教育の視点に立ち、実際の生活に生かせることができ、将来の自立につながる学習内容であったか。

3 研究内容

(1) 自己認知力, 他者理解力を高める

- ・自分を見つめる
自分の好きなこと, 嫌いなこと
自分のよいところ, 性格, 願い, を知る
自分の多様な面に気付く
- ・他者を理解する
自分のことを伝え, 他人のことを知る
自分と他人のよいところに着目して認め合う など

(2) コミュニケーションスキル・対人関係スキルを高める

- ・相手の話をよく聞く
 - ・自分の思っていることを伝える
 - ・双方通行のコミュニケーション
 - ・自分に必要な支援を求める
- など

* 学習プログラムの研究と蓄積を行い, 実践を検証しながら進める。

